

社会連携系職員養成プログラムレベル I 「地域特性論」 — 地方創生・地域資源を活用した地域の活性化 —

■ 講師



坂本 世津夫

(愛媛大学 社会連携推進機構 教授(地域連携コーディネーター))

2002年4月から2005年3月まで、愛媛大学にて「地域情報学」(伊予銀行寄附部門)を担当。2005年4月から2011年3月まで、高知大学国際・地域連携センター教授(生涯学習部門長)。2014年10月から愛媛大学社会連携推進機構教授(地域連携コーディネーター)。日本の情報化を、地域という視点で見直し、地域における「知的能力」と「コミュニケーション能力」を高めることにより、新たな産業集積や地域の活性化(地域の自立)が実現できないか、研究・実践している(ICT 利活用促進)。総務省委嘱地域情報化アドバイザー、一般社団法人日本テレワーク協会アドバイザー、地域活性化伝道師(内閣官房)、マイルドさ国党(党首)等。

■ プログラム概要

急速な人口減少、超高齢化社会、従来型産業の衰退と、現在の日本は(日本の地域社会は)大きな転換点にさしかかっている。それを打開させる為に、「地方創生」が叫ばれているが(国では、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう、まち・ひと・しごと創生本部を設置している。そして大学には、自治体との連携を強化して打開策に取り組み、地域課題に対応できるように大学改革が求められている)、具体的にどう対応すれば良いのか、国も自治体も大学も打開策を見いだせていない状況にある。今回の講義では、地方創生の意味を理解して、地域が本来持っている資源を如何に活用して地方創生を図るか、教職員は如何にアクションすれば良いのかについて講義を行う。地方創生、地域資源を活用した地域の活性化手法のヒントになればと考えている。

■ 主な受講対象

教職員: 大学を「地(知)の拠点」とするために活動している多くの教職員の参加を歓迎します。

■ 本プログラムの到達目標

1. 地方創生の意味が理解できる。
2. 地域資源の活用方法を提案できる(地域イノベーションの提案)。
3. 地方創生における大学の意義・方向性を理解する(COCの意義)。

■ 日時・会場

日 時 : 平成27年8月26日(水)10:00~12:00

会 場 : 愛媛大学 城北キャンパス

※本プログラムは、「地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)」と連携し、愛媛大学、香川大学、四国大学、今治明德短期大学による共同プログラムとして開講いたします。